

令和4年度 安来市立荒島小学校 学校経営案

1. 教育目標 **心も体もたくましく ありのままの自分を表現できる子どもの育成**

人は、失敗やまちがいを繰り返しながら成長していきます。特に、成長過程にいる子どもたちは、それを素直に受け入れる柔らかい頭を持っており、工夫や努力によってさらに成長できると思います。

本校児童には、**失敗やまちがいをしても、決してくじけることなく、そこから何かを学びとり、自分自身の成長に生かしていけるたくましさや我慢強さも身につけてほしいと願っています。**

失敗やまちがいをもうするけど、「ありのままの自分」が大好き。そして、「ありのままの自分」を素直に表現できる子どもを育てていきたいと思えます。そして、それをしっかり受け止めることのできる周囲も同時に育てていきたいと考えています。

【めざす学校像】

児童にとっても、教職員にとっても居心地がよく、常に自分の居場所がある学校

【めざす子ども像】

- (知) 学ぶ喜びを知り、あたまを鍛えていける子
- (徳) 協働する喜びを知り、こころを磨いていける子
- (体) 汗を流す喜びを知り、からだづくりができる子



2. 今年度の重点目標

(1) バランスのとれた学力育成と個に応じた指導の充実

- ① 3つの学力のバランスのとれた育成
 - ・「実際の社会や生活で生きて働く**知識及び技能**」、「未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**」、「**学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間力**」という3つの学力の柱をバランスよく育成する。
- ② 家庭学習の習慣化
 - ・「家庭学習の手引き」による子どもや保護者への働きかけ、家庭学習の習慣化による学習意欲の喚起、めあてとふりかえりを取り入れた家庭学習の在り方（授業とのつながり）
- ③ 個別指導の工夫
 - ・にこにこサポート事業の充実、個のつまずきや発展学習に対する支援による学力保障
- ④ 個に応じた特別支援教育の推進
 - ・特別支援教育コーディネーターを核とした児童についての情報、具体的な支援方法の共有
 - ・特別支援教育に対する理解教育の充実

(2) 児童を「学びの主体」とする授業研究の推進

- ① 研究推進体制の確立と充実
 - ・しまねの学力育成プロジェクトを踏まえた、推進体制、研究授業・協議、研修活動等の充実
 - ・初任研：組織全体で育てるイメージで！ みんなで学ぶ「見学研」「実践研」「先輩に学ぶ」
- ② 探求型授業の確立
 - ・「どの学級でも」「どの指導者でも」「どの教科でも」指導がぶれない指導理念・授業スタイルの確立、誰にもわかりやすい授業づくり、学びの流れや様子がわかる板書の構造化
 - ・自力解決をめざした探求型授業による主体的・対話的で深い学びの実現

(3) 積極的な生徒指導及び児童の自尊感情を高める取組の推進

- ① あたりまえのことがあたりまえにできる「基本的な生活習慣の定着」を目指す日常指導の徹底
 - ・望ましい生活習慣（あいさつ・言葉遣い・履き物揃え等）を身につけた子どもの育成
- ② 積極的な生徒指導の推進
 - ・日々の授業の充実を柱に、日常観察、アンケート QJ、教育相談、SCの積極的な活用による適切な対応、子ども理解の視点に立った情報共有
- ③ 問題行動への初期対応と情報の共有化による組織的な指導
 - ・学校全体でスピード感、具体性、安定感のある対応

(4) 全ての教育活動の基底に据えた人権教育の推進

- ① 一人一人の自己実現を支援する「進路保障」の考え方に立った日常指導（教科等、学校生活）の充実
 - ・子どもたち一人一人の学びの保障（学力向上、生徒指導、特別支援教育）
 - ・自分の将来をたくましく切り拓き、様々な人権問題の解決のために行動できる子どもの育成
- ② 教職員の人権教育観の確立と研修の充実
 - ・人権に関する教職員の日常的な切磋琢磨と人権意識の高揚のための推進体制の確立（授業・研修の充実）

(5) 読書活動の推進と学校図書館活用教育の推進

- ① 様々な読書活動の推進と本に親しむ環境作り
 - ・読み聞かせ（お話タイム）、朝読書、教科学習、休憩時等の読書の奨励と意識付け
- ② 学校図書館活用教育の推進による学力育成
 - ・「本に手をのばす子」の育成、学びに本を活用した「活用力」と「読解力」の育成、教科及び総合的な学習の時間等の指導における司書教諭・学校司書との連携強化

(6) 元気でやり抜くための体力づくりの推進

- ① 基礎体力の増進
 - ・基礎体力の増進を図る体育の授業や体力づくりの工夫、外遊びや体育館遊びの奨励
- ② 健康教育の推進
 - ・「早寝」「早起き」「朝ご飯」の奨励、「メディア学習」の推進、生活リズムの定着
 - ・児童の「食」に対する関心を高める「食の学習」の工夫
 - ・新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ対策やけがの防止等、自己管理能力の育成



3. 重点目標を実現させるための基盤

(1) 様々な教育課題に立ち向かえる教職員の協働体制

- ① 研修の充実と資質の向上
 - ・先進地の研究会等への積極的な参加（コロナ禍配慮）、研修成果を教職員に還元する。
 - ・教職員研修の時間を設定し、計画的に研修を深める。
 - ・日常の授業を相互に見せ合い情報交換や相談を気軽に行なう。ベテランから若手へ教育技術の伝達・共有。
- ② 服務規律の確保
 - ・研修等により服務規律の重要性を確認し合い、その確保に努める。
 - ・早めの「ホウ（報告）」「レン（連絡）」「ソウ（相談）」を心がける。
 - ・トラブルの解決は、1人で抱え込まず、周囲に相談。必ずその日のうちに一手を打つ。
- ③ 居甲斐、仕事甲斐、生き甲斐のある職場づくり
 - ・共感・共汗・共歓（協働することによって子どもの成長を共に喜び）
 - ・教職員の親睦をより深める活動を工夫する。
 - ・相互に声を掛け合いながら、1人1人の負担軽減に努める。
 - ・1人1人がワークライフバランスについて考え、仕事（教育）の質の向上と働き方改革をめざす。

(2) 保護者・地域から信頼される学校づくり

- ① 情報の積極的な発信と傾聴による信頼される学校
 - ・学校便り、学級便り、安心メール、HP等で積極的な情報発信を行い、保護者や地域の理解を図る。
 - ・電話、連絡帳、面談で児童の様子を保護者に伝えたり保護者の声を聞いたりすることで信頼関係を深める。
- ② 地域の「ひと・もの・こと」を活かしたふるさと教育の推進
 - ・梨作り（3年）・水質調査（4年）・亀治米（5年）・古墳（6年）等の活動を実施する。
 - ・世界を視野に入れながら、ふるさと「荒島」に誇りと愛着を持ち、自分の言葉で語れる子を育てる。
- ③ 小中連携教育の成果や課題を踏まえた積極的な取組の推進
 - ・安来三中校区の連携教育（小中連携の会）の成果と課題を踏まえた取組を推進する。
 - ・こども園や保育所との連携を推進し、小学校へのスムーズな接続を図る。
- ④ 教育課程の適切な評価と改善
 - ・学校評価委員による評価や児童・保護者・教職員アンケートの結果・分析により改善を図る。